

高田氏、ラジオ関西で三田をPR！

## 海への渴望は国際化へと駒を進める

阪神北県民局では阪神北地域の観光資源をPRすため三田市観光協会に、ラジオ関西放送番組「おもしろ神戸・ひょうご楽」へ出演依頼があり、落語家・旭堂南陽が「三田藩主九鬼家の由来」花山院・山本住職が「西国三十三ヶ所花山院」を郷土史研究家・高田義久が「白洲次郎・川本幸民―三田が生んだ国際人・国際派」をテーマに兵庫学田辺塾長・山崎副塾長・池田さんの司会で十二分のトークのあと、一人三分間のさんだPRをしてきました。

### 三田が生んだ国際人・国際派

【蘭学者・川本幸民】皆様三田が生んだ偉大な蘭学者川本幸民をご存知でしょうか。川本幸民は将来洋学の必要な時代が来ることを見越していた藩主九鬼隆国の命により江戸に留学しました。坪井信道の塾で蘭学を学んだ幸民の目は、海外に向けられ、特に「舎(せい)

密(み)」の分野に精通し、西洋理化学の中で初めて「化学」という言葉を使いました。西洋の最新の機器を紹介し、わが国で最初に「マツチ」「ビール」「写真機」なども作りました。幕府が崩壊して三田に帰った幸民は英蘭塾を開き、青年達に語学を通じ文明開花の新思想を吹き込みました。その頃三田

では一般男子は洋服を着用し、牛肉を常食とし、洋書を通読、洋式操練など県下で最も進んでいました。ヨーロッパ的な発想を身につけ明治

の素晴らしい発展の原動力となった、この偉大なる化学者幸民が亡くなって一二九

### 【日本で一番カッコイイ男・白洲次郎】

「日本で一番カッコイイ男」と形容される人物のルーツが、三田市にあることをご存知でしょうか？



その人物とは、今、話題の白洲次郎です。戦後、吉田茂の側近として、流暢な英語で連合軍司令部相手に互角に渡り合い、経済復興に尽力しました。次郎はイギリスのケンブリッジ大学に留学、英国流の紳士道を身につけ、終生自分の信じた「原理(プリン)原則(シブル)」に忠実に生き

ました。そんなカッコイイ次郎のDNAをたどると、祖父の白洲退蔵が浮かんできます。三田藩の儒官であった退蔵は幕末の変革期に最後の藩主九鬼隆義に抜擢され、藩の大参事(家老)として洋学を導入、人材育成に力を尽くし、

藩財政を立て直し、優れた先見性で藩の難局を乗り切りました。廃藩後、武士には珍しく経済面にも明るかった退蔵は福澤諭吉の助言を受け

開港間もない神戸に進出し、貿易商社「志摩三商会」を興しました。



三田で生まれた次郎の父文平は、アメリカのハーバード大学やドイツのボン大学での留学生生活が長かったこともあり、考え

方や行動も万事欧米流で自由奔放な生き方をしました。強烈な個性でこの世



を駆け抜けた、昭和の侍白洲次郎と正子が眠る心月院など新しい発見を三田でしてみませんか。(文・高田義久)

### ドラマ『白洲次郎』放映に合わせ白洲次郎と白洲三代の軌跡展

9月21〜23日にNHK総合テレビで、好評だったドラマ『白洲次郎』が前二回の再放送を含め連続三夜放映が予定されています。或いはドラマの中で心月院が取り上げられるとの噂もあり、三田市民にとっては目が離せません。これに関連し、当会では左記の通り、白洲次郎と白洲三代の軌跡展を企画いたしました。これを機会に。是非白洲次郎と三田の関係を知って頂き、全国から観光に訪れた方々に、わが町三田を大いにPRして頂きたいと思ひます。

- ◆期間：9月17日(木曜日)〜24日(木曜日)
- ◆場所：三田駅前キツピーモール6F
- ◆主催：ドラマ九鬼奔流で町おこしをする会

## 川本幸民生誕二百年に郷の音ホールで上演、市民俳優求む 演劇で郷土自慢を全国発信

誰にだったか忘れましたが若い頃「日本で初めてビールを作ったのは三田の人や」と教えられ、三田小学校正門前に昭和二十八年建立された、川本幸民顕彰碑に触れ「わが町三田にも偉い人がいてはったんや」と納得。まだお酒を飲めない年齢の頃でした。史実として川本幸民さんの存在を知ることにはなりましたが、私の意識の中でそれ以上の進展はありませんでした。年を経て、演劇の世界に籍を置くことになって、歴史上の人物を描いた作品との出会いがあり、その度毎に私の頭の中で川本幸民の名が膨らむのを覚えるようになりました。同じころ、地域のボランティア活動にも

積極的に参加していました。演劇とボランティア活動。関連性がないように思われるかもしれませんが、ボランティア活動を通じて、自然、産業、文化などで、三田には誇りにできる材料がいっぱいあるのに、三田の人はさしてそれを『自慢』にしていることに気づきました。そして、同郷の偉大な化学者・川本幸民さんは三田の人が自慢できる存在でありながら、川本幸民さんを『自慢』して見せる三田の人の少ないことにも気づいたのです。『三田の人は三田自慢が下手や』と思うようになり、そんな思いが六十を過ぎて一層募り、私にできることは演劇です。郷の音ホールも竣工しまし

た。『三田自慢』の手段として、川本幸民伝の舞台化に向けて私なりの学習を始めることになりました。まず、郷土の学習では最先鋒の『九鬼奔流で町おこしをする会』に相談して教えを乞うことが第一歩でした。以前に面識のあつた会員の野上和雄さんと路上で会い、その旨お話しすると快く資料になる柳田昭先生の『黒船何するものぞ』と北康利先生の『蘭学者・川本幸民』の本を貸して下さいました。そして、会員の高田義久さんを中心にして市観光協会と共に発行された『川本幸民』、『三田市発行の『川本幸民物語』などと共に川本幸民がらみの記事が掲載された刊行物を届けて下さる人にも恵まれ、脚

本の第一稿を書き上げる事が出来たのです。すぐさま高田さんの許へ持参。読んでもらって批評を頂くことにしました。九鬼奔流で町おこしをする会の定例会にも呼んで頂き、意見を聞かしてもらい、理解者を得ることができました。先日、会が主催された講演会があり、その中で「いくら偉大な功績を持つ人でも、それを伝える人が居なければ忘れ去られてしまう」意味のお話がありました。機会を並べて蘭学を学んだ川本幸民と緒方洪庵。二人は生涯の良き友であり、学問の良きライバルでもありましたが、洪庵の『適塾』は大阪大学の前身として緒方洪庵の名を伝えています。

幸民の塾『静脩堂』や『英蘭塾』は文献でしか見る事ができません。何度も火災に遭って資料が焼失したと言う理由もあるでしょうが、語り継ぐ人や物で残っていないのは口悔しい思いです。会の皆様は郷土史研究のみでなく語り部であろうとされているのだと思いますし、微力でも演劇を通じて『三田自慢』の出来る語り部を増やすことができれば、三田の歴史、文化、産業、

自然、観光の素晴らしさを全国へ発信出来ると思ひて、『ふるさと三田の偉人・川本幸民伝』のお芝居に取り組んで参ります。市民が俳優になって舞台に立ちます。ただ今、三田演技塾で演技力の取得学習中です。今からでも遅くはありません。『三田自慢』と一緒にやりませんか。あなたの参加をお待ちしております。(文・演出家・中畑八郎)



誇りに思う三田自慢を発信『三田演技塾』  
■塾頭：中畑 八郎  
■住所：〒669-1529 三田市中央町2丁目20番地  
■電話：079-563-1808  
■携帯：090-8888-5084